

伊丹市立荒牧中学校
図書館
平成２９年７月発行

こちらで紹介した課題すいせん図書については、一斉貸出しとします。

貸出開始日　７月１０日（月）※８時０５分開館

夏休み用貸出は７月３日（月）より開始。１人５冊まで貸出０.K。

課題すいせん図書は数に限りがあります。借りたい人は早めに図書館へ。

課題図書



『ホイッパーウィル川の伝説』

ｷｬｼｰ・ｱｯﾍﾟﾙﾄ/ｱﾘｽﾝ・ﾏｷﾞｰ

姉妹の絆、そしてピュアな愛情が、ふしぎなキツネの魂と響きあう、神秘の森でくりひろげられるスピリチュアル・ファンタジー。

11 歳のジュールズは、石に惹かれる「石ガール」。一方、姉のシルヴィは、走るのが大好きな学校一のランナー。 性格も体型も対照的な二人は、ケンカもするけど、とても仲のよい姉妹だった。しかし、母親が突然病で亡くなり、姉のシルヴィも、ある雪の日に不穏な足跡だけをのこして姿を消してしまう。

そこからはじまる父と娘のつらい日々と、そのかなしみを乗り越えるまでを描く。そこにもうひとつ、ふしぎな力をもつキツネ「セナ」の幻想的な物語が編みこまれ、やがてそれがひとつに……。そして、姉のシルヴィの秘密が明かされるクライマックスへとつながっていく。

この物語は、お互いを「ソウルシスター」と呼びあう友人である二人の著者が、4 年の歳月をかけてつむいだ共作。

大切な人を亡くした時の寂しさや苦しみや後悔がひしひしと伝わってきて、とても切ないけれど、魂と魂のつながりを感じられる、幻想的で美しい物語です。人間の視点からの話をｷｬｼｰが、キツネの視点部分をｱﾘｽﾝが担当し、幻想的なファンタジーと日常のリアリティがとけあい、不思議な世界へ引き込まれていきます。

外国文学ですが文章はとても読みやすく、身近なテーマなので感想文にオススメです。





『月はぼくらの宇宙港』 佐伯　和人

いま月は、人類が太陽系へフロンティアをひろげるための宇宙港として、注目を集めはじめています。そんな「熱い」月を大解剖。

近年の月探査によってわかって来た最新の月科学を月探査機「かぐや」のプロジェクトに携わった鉱物学者が紹介し、科学的な現象をカレーライスやみそ汁に例えるなど、子供向けにわかりやすく解説。人類が月で生活する未来図について語る章などには、ロマンチストでもリアリストでもある著者の思いがにじみ出る。

子どもたちの宇宙開発未来図を月へ、太陽系へと広げ、将来の宇宙への関心を大きく伸ばす一冊。



宇宙には無限の可能性があります。その宇宙の旅への第一歩として、月を基地にしよう！というのがこの本の内容です。

科学者になりたい人のために、簡単なミニ実験コーナーも用意されています。もしかしたら、理科の自由研究のヒントもあるかもしれませんよ。オススメです。

【　相馬（康）先生　】



『円周率の謎を追う　江戸の天才数学者・関孝和の挑戦』

鳴海　風

武家に生まれ、儒学や剣術を学ぶのを強いられた「さむらいの子」は、数学に夢中だった。時間があれば吉田光由の算術書『塵劫記』を読んだ。問題を解けたときの楽しさに勝るものはない。もっと難しい本を勉強したい。一番の謎は「円」。本当の円周率とは―。

円周率３．14 が、まだ使われていなかった江戸時代。円に魅せられ、その謎を解明しようとした数学者がいた。彼の名は、関孝和。円周率の計算や、筆算による計算の発明など、数々の偉業を残し、日本独自の数学・和算を、世界と競えるレベルにまで押し上げた彼の、少年時代からの物語。

題名に「円周率・・・」とあるので、数学が好きな人にはもちろんおすすめですが、嫌いな人にもぜひ読んでほしい１冊です。

今では数学に時間に当たり前のように使われている円周率、３．１４･･･から始まる終わりのない数字に一生をかけて挑み続けた江戸時代の武士の話です。そして、大好きなことに打ち込むためには、やりたくなくてもやらなければいけないことがたくさんあるということに、中学生の君たちがとても共感できる本です。　【　米倉先生　】

